

河原地域 意見交換会

# 鳥取市生活交通創生ビジョン 策定に向けた意見交換会

令和元年10月  
鳥取市交通政策課

- ◆ 鳥取市では、「鳥取市生活交通創生ビジョン」を本年度中に策定する予定です。

鳥取市生活交通創生ビジョンとは…

公共交通の現状を明らかにし、5年後・10年後を見据えた生活交通確保のための方向性を示すもの

- ◆ 本日の意見交換会は、

1. お住いの地域の公共交通の課題
2. 5年後や10年後を見越した将来における移動手段のあり方

についてご意見をうかがい、「鳥取市生活交通創生ビジョン」に反映することを目的として開催するものです。

## 1 地域の公共交通の状況

- 公共交通の運行状況やサービス水準
- 公共交通のカバー率 など

## 2 公共交通の課題【意見交換】

- 公共交通に関する動向
- 公共交通の利用者シミュレーション結果
- 地域における公共交通の課題
- 意見交換

## 3 将来における移動手段のあり方【意見交換】

- 移動手段確保策の例（参考）
- 意見交換

## 4 今後のスケジュール

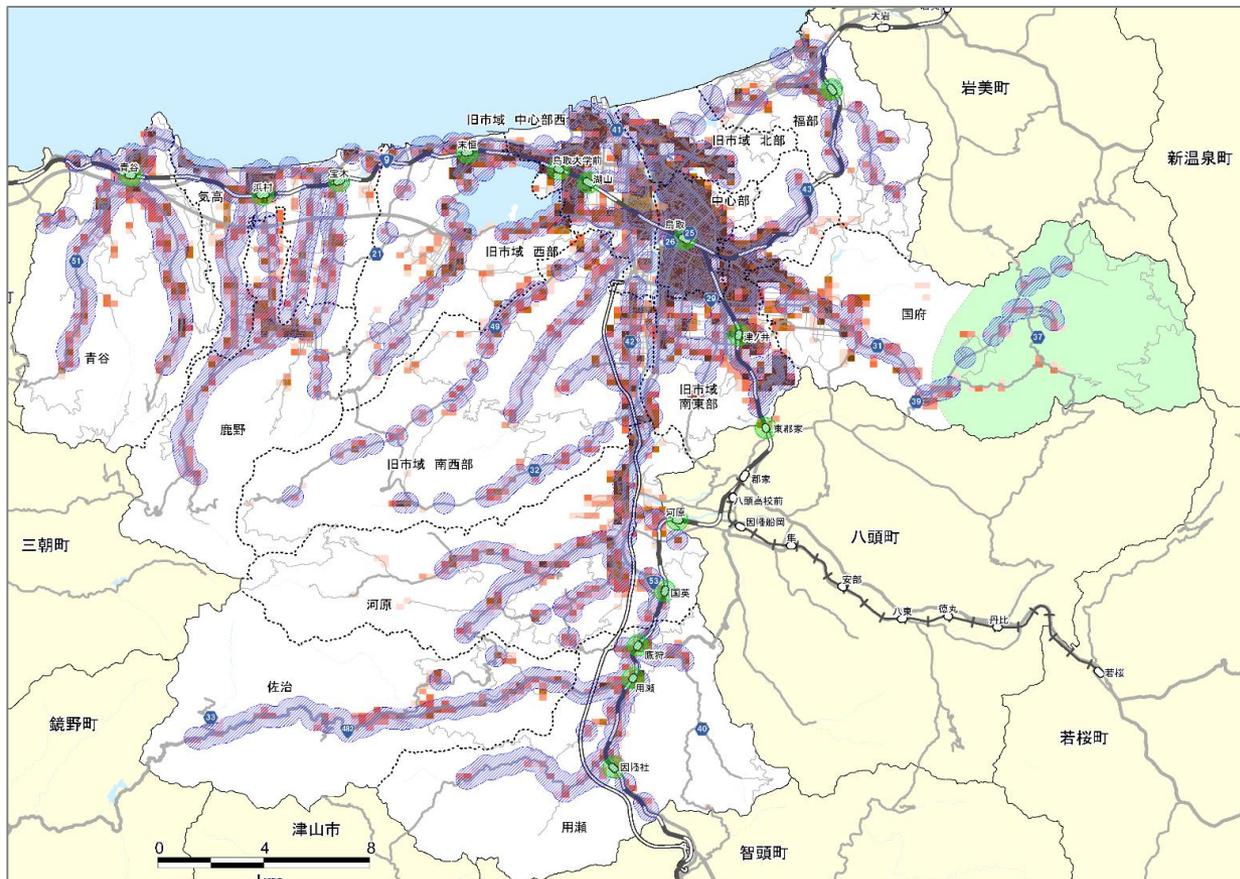
# 1 地域の公共交通の状況

---



## 公共交通空白地域とは…

鳥取市では「バス停・鉄道駅から半径400mの範囲より外側の場所」と定義されています。

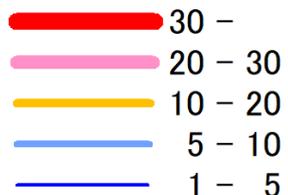


鳥取市全体の公共交通のカバー率は93.4%





運行便数(便／1日)

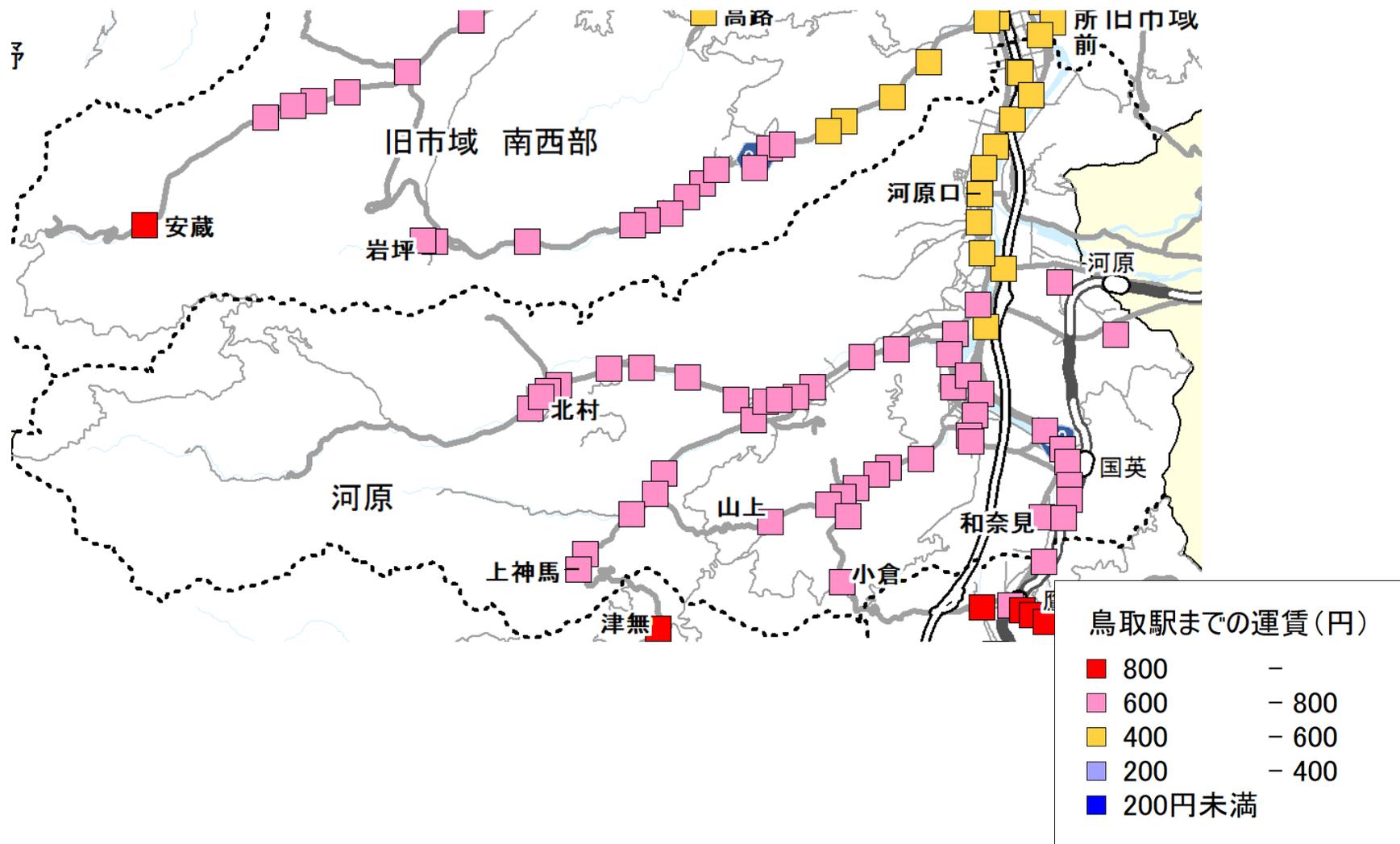


※地域を運行している鉄道以外の公共交通の運行便数の計

- 南部幹線が運行している区間は、比較的運行便数が多くなっています。
- 一方で、南部地域有償バスのみが運行している区間は、1日あたりの運行便数が5便以下と比較的少ない状況です

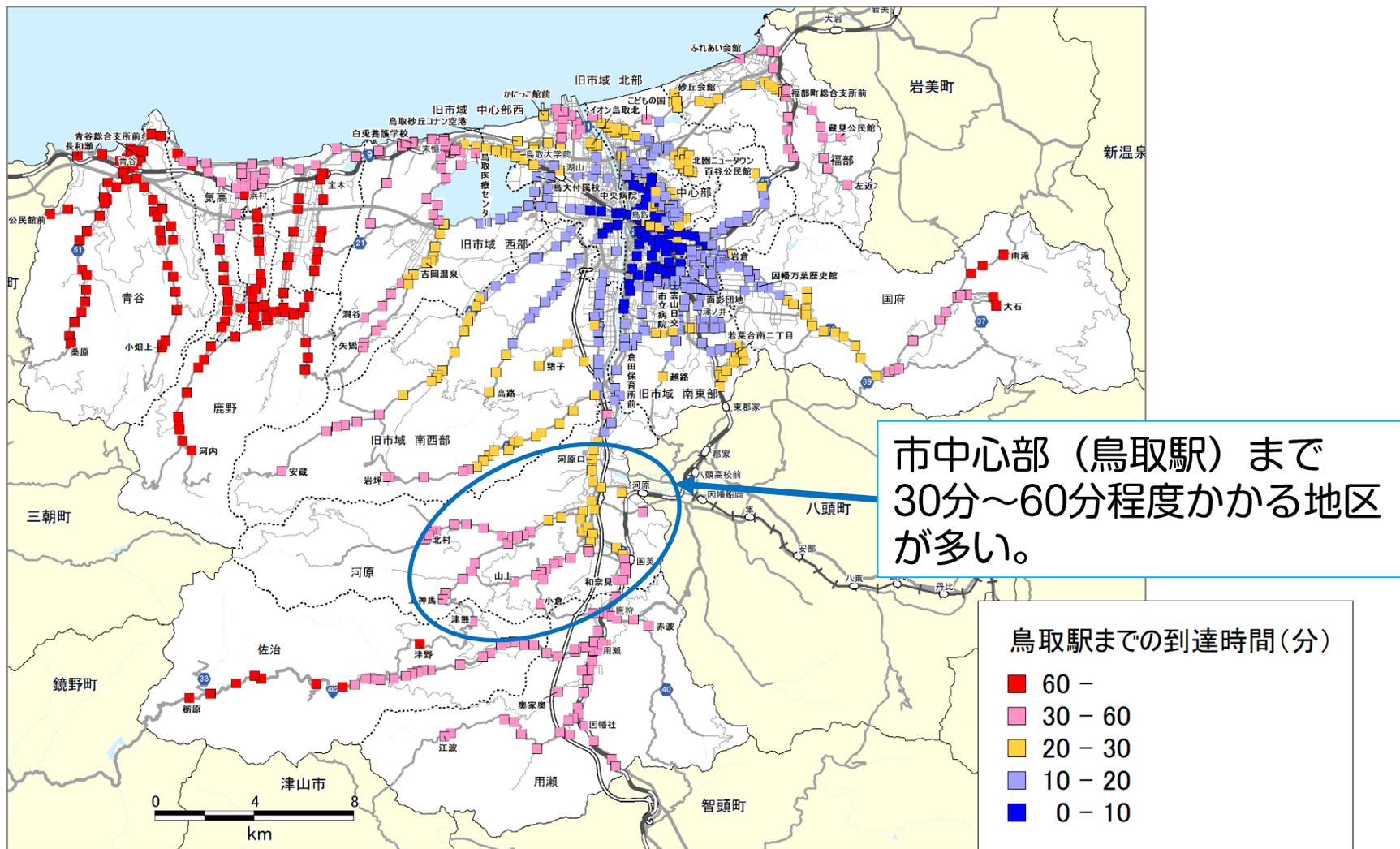
# 市中心部（鳥取駅）までの運賃

- 600円～800円の区間が広範囲を占めており、南部幹線が運行している区間においては、鳥取駅から河原地域の中心部までは400円～600円程度の運賃で行くことができます。



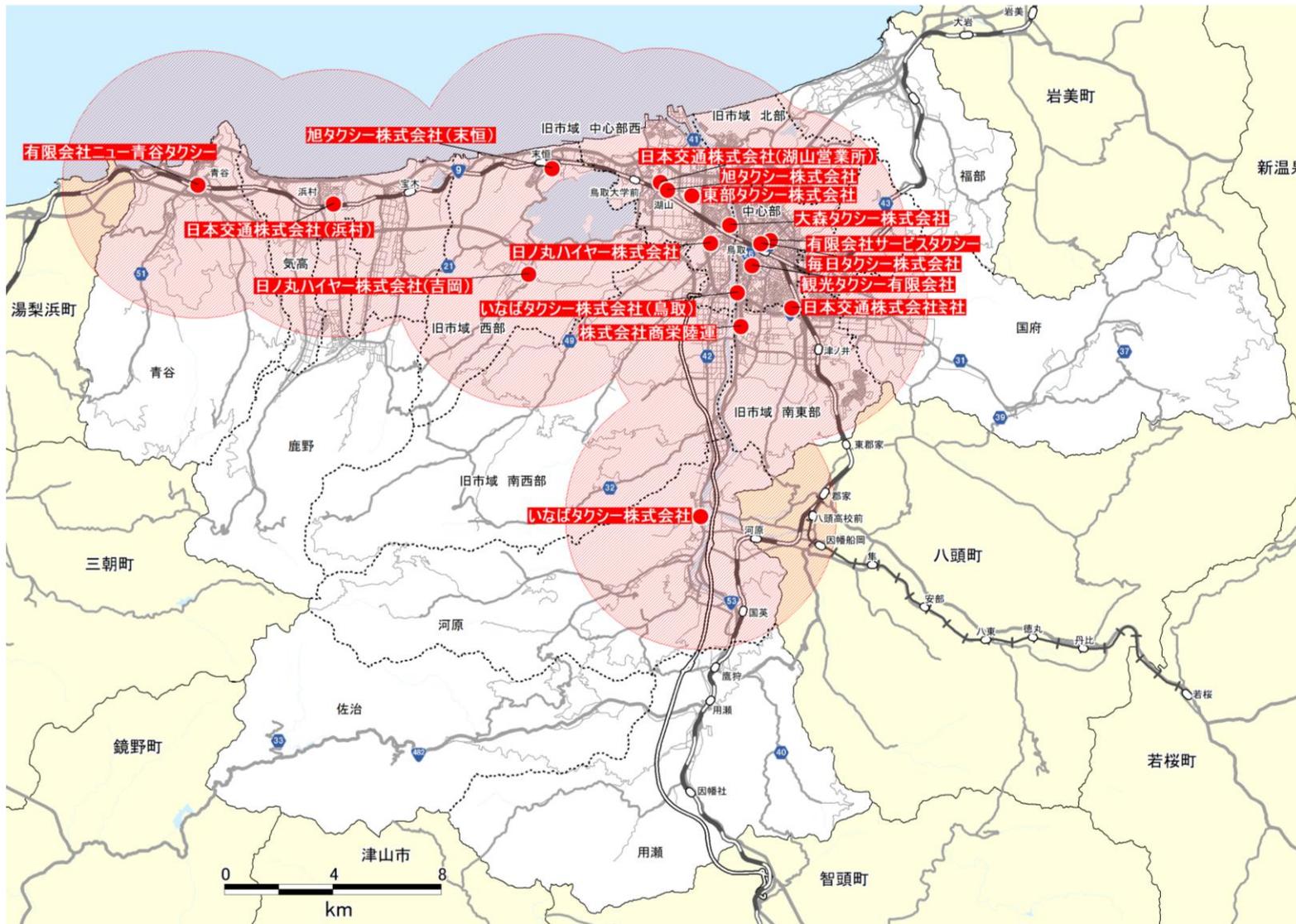
# 市中心部（鳥取駅）までの到達時間

- 30分～60分の区間が広がっており、南部幹線が運行している区間においては、河原地域の中心部を境に、30分以上所用時間がかかる区間に移行しています。



# タクシー事業所の立地状況

- 河原地域では谷一木にタクシー事業所が1社、立地しています。



2

## 公共交通の課題

---

## 公共交通の担い手（運転者）不足の深刻化

鳥取市では..

- ・バスの運転者不足によるバス路線の縮小・廃止
- ・タクシーの運転者不足による営業時間の短縮 等

## 鳥取市南部地域有償バスの運行

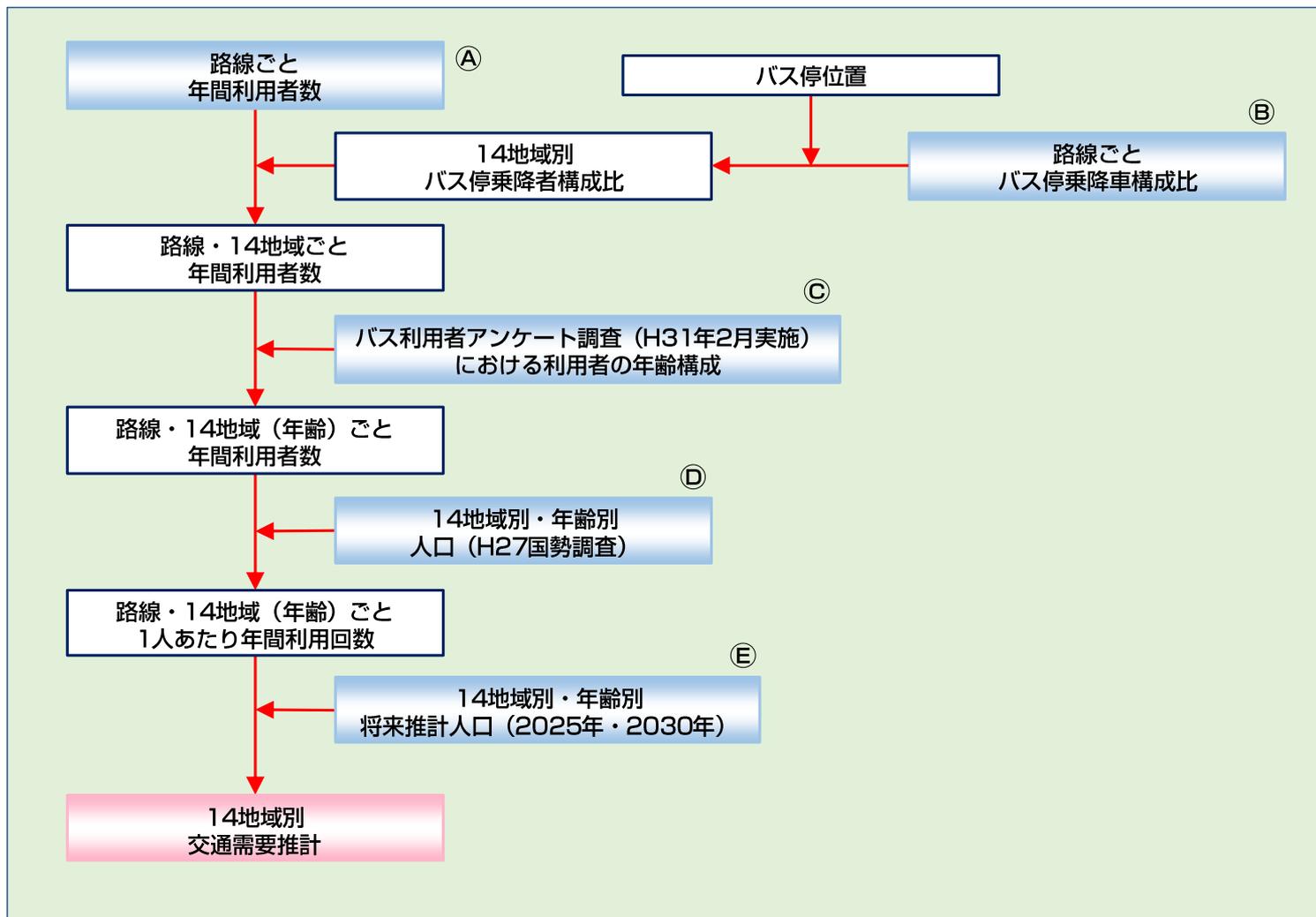
- ・昨年度まではタクシーによる乗合タクシーを運行していましたが、令和元年4月から、運行事業者の撤退により、市の直営である市町村運営有償運送の南部地域有償バスに移行しました。



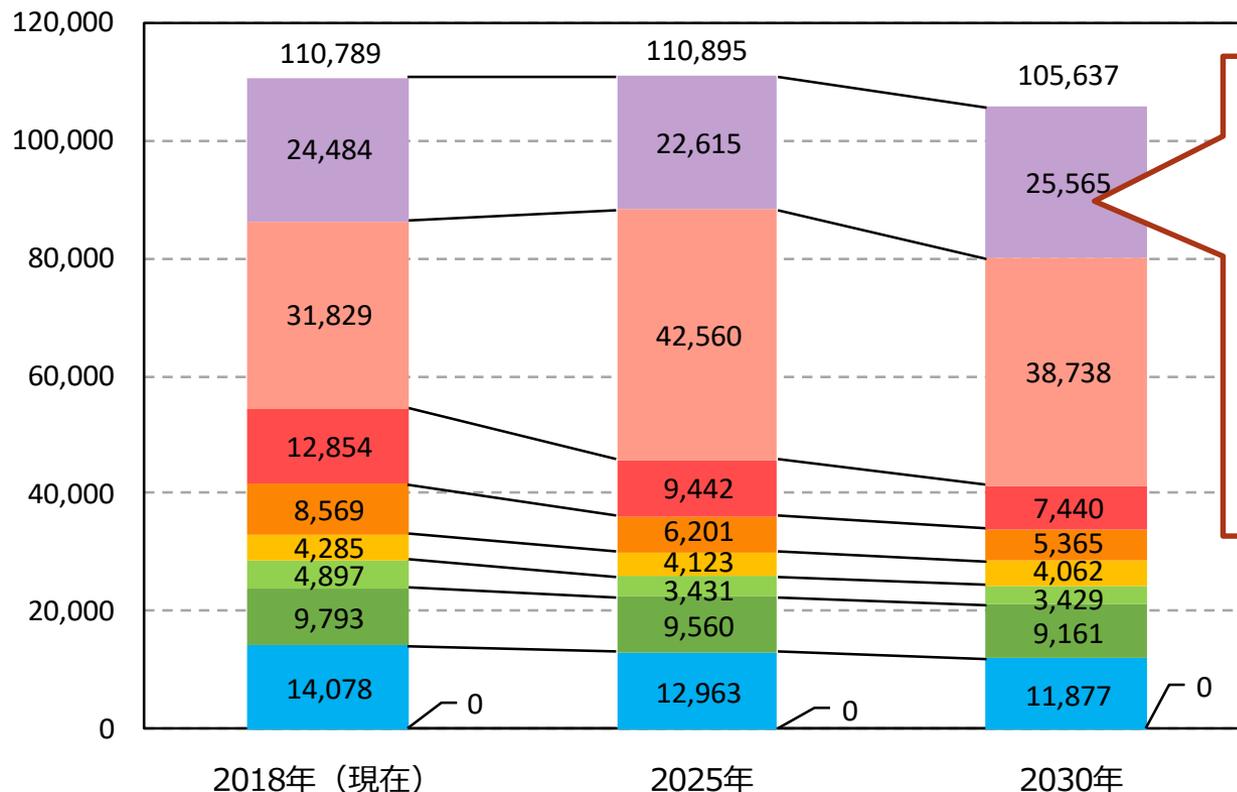
現在も南部地域有償バスは、  
運転者不足といった問題を抱えており、  
今後の継続が困難な状況となっています。

- 現状の地域別バス利用者数を基に、年代別の将来人口推計やバス利用者層を用いて5年後、10年後のバス利用者の推計を行いました。

※地域については、市内を14の地域で区分しています。



- 年代別人口の増減率を基に推計した結果、河原地域ではバスの利用者数は現状から大きな変化はないと見込まれます。（ただし、人口推計に基づいた推計であるため、あくまで「見込み」として留意する必要があります）



現状のバス利用者は70歳代・80歳代の利用者が5割以上を占めているため、高齢者のバス利用が増加（一方で、10歳代や20歳代の利用者は徐々に減少）



1

公共交通のカバー率は8割を超えているが、バス停から距離の離れた場所に暮らしている人が一定数いる。

2

市内中心部から距離が離れており、運行便数が少ない支線区間ほど所要時間が長く、運賃が高くなっている。

3

鳥取市南部地域有償バスは、市が運行している路線であるが、運転者不足の深刻化によって、今後の継続が困難な状況にある



5年後・10年後を見据えて地域における  
移動手段の「あり方」を考えていく必要があります。

この説明でお示ししている課題のほかに、地域の移動に関して困りごとや不便を感じている点（課題や問題点として感じていること）があればお聞かせください。

例)

- ●●に行きたい人が多いが、バスでは行くことができない
- ●時頃に地域の病院へ行きたいが、ちょうどいい時間帯に便が運行していない

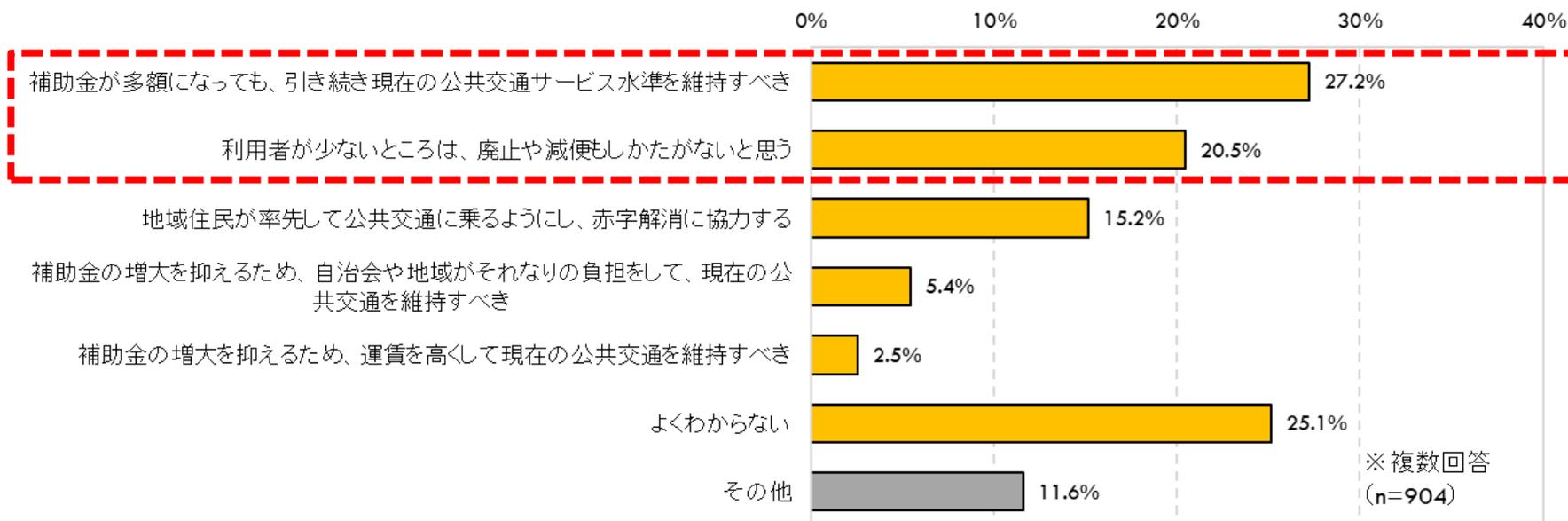
など

## **3** 将来における移動手段のあり方

---

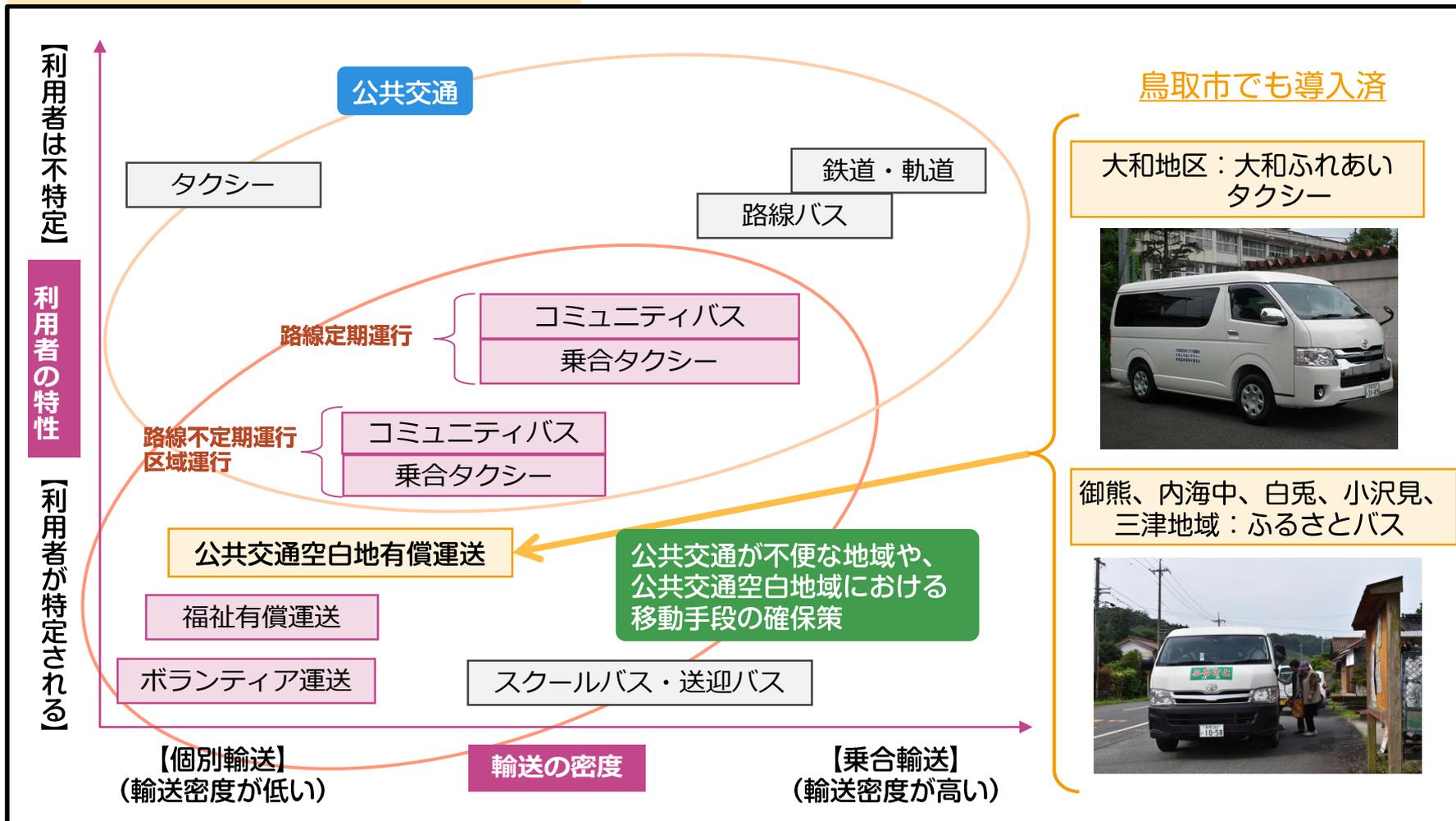
## 移動手段の維持・確保に対する市民の意識

- 将来の公共交通のあり方については、「補助金が多額になっても、現在のサービス水準を維持すべきである」が回答としては最も多くなっています。
- 一方で、「利用者が少ないところは、廃止や減便もしかたないと思う」と回答する人も一定数見られました。



## 移動手段の分類

### 利用者特性と輸送密度による分類



移動手段確保策の例	運行におけるメリット	運行する上での留意点
<p>公共交通空白地有償運送（住民が主体となった共助による輸送）</p>  <p>▲「大和ふれあいタクシー」 （鳥取市倭文大和地区）</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域住民が主体となって運行計画を作ることができる。</li><li>● 地域の実情に合わせてきめ細やかな運行ができる。</li><li>● 地域が保有している自家用自動車を活用できる。</li><li>● 利用者が運送の対価を支払うことで、持続性が期待できる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● NPO法人や自治会といった運営の受け皿となる団体が必要である。</li><li>● 運転者の確保、管理体制の整備や輸送実績報告は実施主体となる団体が行う必要がある。</li><li>● 地域での運転者確保や採算性等が課題</li></ul>
<p>ボランティア運送（住民が主体となった互助による輸送）</p>  <p>▲自治会輸送「ふくろう号」 （島根県安来市広瀬町宇波地区）</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域住民が主体となって運行計画を作ることができる。</li><li>● 道路運送法に基づく許可や登録を必要としないため、手続き等の負担が少ない。</li><li>● 地域活動等でも車両を自由に活用することができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 燃料代、道路通行料及び駐車場代以外の運送の代価を支払うことができない。</li><li>● 道路運送法によらない運行であるため、安全確保や利用者保護の面が十分ではない。</li><li>● 地域での運転者確保や採算性等が課題</li></ul>

公共交通を取り巻く状況は厳しくなっており、ある日突然、地域のバス路線の廃止、タクシーの撤退という事態が起こってしまう可能性もあります。

このような状況の中で、地域の移動手段を将来に渡って維持していくために重要だと思ふ点や、お住まいの地域に適した移動手段、地域に必要なと思ふ移動手段についてご意見をお聞かせください。

※今は車を運転して移動されている方も自分のこととして、お考えください。

## 4 今後のスケジュール

---

【今回】意見交換会の開催（本年10月～11月）

生活交通創生ビジョン案（事業内容等）の検討

鳥取市生活交通会議での検討（本年12月頃）

パブリックコメント（来年1月～2月頃）

鳥取市生活交通創生ビジョン（案）をお示しして、  
ビジョン案に対するご意見を伺います。

「鳥取市生活交通創生ビジョン」の策定（来年3月頃）

令和2年度よりビジョンに基づいた具体的な取組を実施